

広報おうめ 10/1号

2022年

NO. 1,447

青梅市出身
元ゴールボール日本代表
東京2020パラリンピック
競技大会銅メダリスト

若杉遥さん インタビュー



10月10日はスポーツの日！

青梅市民の皆さんにも
スポーツに親しんでもらいたい

今号の主な記事

◆10月15日（土）はJR河辺駅～日向和田駅間の列車が終日運休…3面 ◆プレミアム付商品券&キャッシュレスで最大30%還元
キャンペーン…4面 ◆高齢者のインフルエンザ予防接種…6面 ◆新型コロナウイルスワクチン接種…7面 ◆うめっ子給付金…8面
◆親子で福島県南相馬市に行こう♪…9面 ◆各地域で開催する文化祭のお知らせ…9面



若杉遥

1995年8月31日生まれ、青梅市出身。中学生のときに視力を失い、転校先の八王子盲学校でゴールボールを始める。東京2020パラリンピック競技大会で銅メダル獲得。2022年5月引退。

ゴールボールとは

視覚に障がいがある選手がプレーする競技で、選手全員が「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着し、音だけを頼りにボールを投げ合い得点を競うスポーツです。



インタビュー動画を公開しています！



△前編



△後編



△メッセージ

青梅の自然と触れ合いながら 遊んだおかげで今の自分がいる

元ゴールボール日本代表 若杉遥さんに青梅市の魅力や競技に対する思いを語っていただきました

自然豊かな青梅が好き

—幼いころから住んでいる青梅市は、若杉さんにとってどのような町ですか。

仙台の友人に青梅の写真を見せたら、「ここ本当に東京なの？」みたいな反応をされて。そう言われるぐらい自然豊かなところが私はすごく好きです。小さい頃から木登りをしたり、山で秘密基地を作ったりとか、自然と触れ合いながら遊んだことで、今の自分がいると思っています。御岳山に登る手前でよく遊んでいました。中学時代は陸上部で、手前の坂道を練習で走っていました。

—これまでゴールボール以外の競技をやっていた経験はありますか。

小学校5年生ぐらいからアイスホッケーをやっていました。その体力作りの一環で、中学校では陸上をやろうと思って、陸上部に入りました。

—中学生のときに病気で視力を失ったと聞きました。そのときの状況を教えてください。

かなり急激に悪くなってしまったので、昨日できていたことが今日できないみたいな状況に近かったです。今まで当たり前のように勉強したり、学校にも行ってたけど、目が見えないだけでこんなに難しくなるんだなと思いました。周りに迷惑かけたくないのに、人に頼まないといけないところで、悩んだりしたこともありました。

—どのようなきっかけでゴールボールを始めましたか。

転校先であった八王子盲学校の体育の先生がたまたま当時、ゴールボール男子代表の監督をされている方で、ゴールボールという競技があるからやってみないかと誘っていただいたのがきっかけでした。

—初めてゴールボールをやったときは怖かったですか。

むしろ目が見えなくてもスポーツをできることにすごく感動しました。ゴールボールはみんなが見えない状況でやるので、平等で言い訳できないし、同じ条件でできることがすごく楽しいなって思いました。始めてみると、どこからボールが飛んでくるか全然分からないし、当たると痛いし、嫌だなんて思うこともありました。点を取れた時は嬉しかったです。

—東京2020パラリンピック競技大会でのチームはどんな雰囲気でしたか。

予選リーグの結果がそんなに良くなかったというか、苦しんで勝ち上がっていった感じでした。リーグ戦からトーナメント戦に入るところで、何で自分たちはここまで来たのかとみんなで再確認しました。「ゴールボールを楽しんで、ゴールボールで世界に勝つためにみんなでここまで頑張ってきたんだよね」と再確認して、1回ギアを入れ替えて試合に臨んでいました。

競技をやっていたから たくさんの人と出会えた

—競技をやっていてよかったと思うことはありますか。

何事にも目標を立てて、それに向かって計画を立てて練習・トレーニングしていく癖ができたことは、今後色んなことに生きていくと思っています。あと競技をしたことによって、たくさんの人との出会いだったり、応援して下さる方がたくさんいるということ自分の肌で感じる事ができました。周りの人に感謝を持てるようになったところは大きいと思っています。



△平成25年日本ゴールボール選手権大会
—ゴールボールの魅力教えてください。

ふだん視覚障がいのある方って、どうやったら安全に歩けるかとか、周りに物がなくていいかとか、すごく気を遣いながら日常生活を送っていることが多いと思います。しかしゴールボールではいったんコートに入ってしまうと自分達の意志で自分達の考えでやりたいこと、やりたいプレーを表現できるということは、ゴールボールの魅力だなと思っています。あとはアイシェードをすればみんな同じ条件でできるので、どんな人でも一緒にスポーツを楽しむことができるということも魅力の一つだなと思っています。

—これまでの経験を活かして取り組んでいきたいことはありますか。

仕事の内容としては、新しく商品やサービ

スを開発するという部署に所属をしています。障がいのある人とか目の見えない人の立場というところに自分自身が立っているの、そういったところの知見を生かしながら新しいサービスが作れないかというところを検討しています。

スポーツは「楽しい」と 感じる事が大事

—障がいがある人もない人もスポーツを楽しめる環境づくりに必要だと思うことを教えてください。

誰でもスポーツできるように最初のハードルを低くするという。あとスポーツをするときに「楽しい」ということを感じてもらうことがすごく大事ななところは思っています。スポーツをするとか、体を動かすことが楽しいということを伝えられるようなきっかけがあったら、すごくいいかなと思います。本当の意味で、誰でもできるようにハードルを低くすると、みんなでスポーツを楽しむところがあっていいのかなと思います。



△平成24年青梅市役所表敬訪問

—10月10日スポーツの日に向けた青梅市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

これまでゴールボール選手として活動していた私に対する青梅市民の皆さんの応援のおかげでここまで競技を続けてくることができました。ありがとうございました。ゴールボール選手として引退をしましたが、また新しい道に向けてチャレンジを始めているところです。10月10日のスポーツの日をきっかけに、皆さんもスポーツを楽しむきっかけを作ってほしいなと思っています。

スポーツDAY青梅2022の シンポジウムに若杉遥さんが登壇

10月10日(祝)住友金属鉾山アリーナ青梅で行われるシンポジウムで東京2020大会レガシーから共生のまちづくりを考える～次世代につなぐ東京2020大会のバトン～に登壇されます。そのほかのイベントなどの詳細は、12面をご覧ください。